



スといった非常に複雑な挙動が生じることを計算機実験を通じて実体験できたことで、基礎物理学の素養の重要性を参加者達に印象づけることが出来たと感じています。

森林環境科学研究所所属の大学院生に同行したチッタゴン大学理学部長とは、今後の学術交流に関する有意義な議論を行い、両大学の持続的な交流の基盤を築くことが出来ました。初日と最終日を除く実質8日間のプログラムでは、受け入れ組織の教員による英語による講義・計算機実習・課題発表といった学術交流に加えて、奈良女子大生との交流を通じて日本をよく知ってもらおう交流会を複数回、実施しました。バン格拉アシユの学生は皆英語が堪能で、本学学生にとって英語で交流するとても刺激的な良い機会となりました。10日間という短い期間でしたが、今回参加

したチッタゴン大学大学院生のほとんどは、今回の来日がバングラデシユ国外に出る初めての海外渡航であり、奈良に到着した当初はいろいろ不安なことが多かったようです。しかし、奈良女子大学の学生がボランティアとして彼女たちの奈良滞在(食事や買い物など)を支援したため、プログラム終了時にはすっかり打ち解けて、本プログラムならびに奈良滞在を十分有意義なものとして楽しむことが出来たと思います。

### (3) 今後の展望

今回招へいた大学院生の中には研究者を目指す学生が少なからずおり、今回のプログラムの経験を活かして再び日本に戻ってきて、さらなる勉学・研究に励んでもらえることが期待できます。バングラデシユは繊維関連産業をはじめとして目覚ましい経済発展を続けています。国の発展には地味であるものの様々な場面で応用可能な基礎物理学の素養が欠かせないと考えます。今回のプログラムが少しでもバングラデシユの発展に貢献できたのでは無いかなと思います。また、英語が堪能なバングラデシユの学生を本学に招へいできたことは、本学学生にとっても非常に良い刺激となりました。また、専門的な研修を実施する「さくらサイエンスプラン事業」が今後も是非継続されることを強く望みます。



奈良女子大生との交流会でのセルフィー



計算機実習室で最終課題に取り組む参加者



交流会で作ったバングラデシユ料理を囲んで



プログラム修了証書を持って記念撮影

た。また、専門的な研修を実施する「さくらサイエンスプラン事業」が今後も是非継続されることを強く望みます。